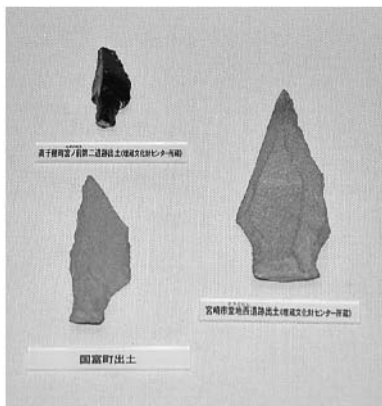


考古-3 はくへんせんとう き 剥片尖頭器

旧石器時代の遺跡として、県内で初めて出羽洞穴の発掘調査が行われてから40年が経過しています。最近では、東九州自動車道の発掘調査などで、多くの旧石器時代の遺跡が発見されています。特に始良Tn火山灰の上の地層から発見される今から2万年前頃の



いずるは遺跡からは、九州を代表する後期旧石器時代の石器"剥片尖頭器"が多数見つかっています。石器の下部につまみをつけて槍先にし、突く道具として使用されていました。材料となる石は鋭い刃を作りだすために、硬くて薄く剥がれやすい性質のものが選ばれます。朝鮮半島でも広く分布しており、当時の交流の様子が伺えます。

当時の食料を得る手段は、狩猟がほとんどでした。日々命を繋ぐために、この剥片尖頭器はなくてはならない存在だったのです。